ソフトウエア版 瞬間環境復元ツール

ドライブシールド

DriveShield

CDS-9MDT-NC　　CDS-N2DT-NC

CDS-9MLT-NC　　CDS-N2LT-NC

ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー対応

クライアントプログラム

インストール／操作ガイド

Ver.2.1.9J

Dec. 2002

株式会社アイ･ディ･ケイ

目 次

■ 始めに..... 1
■ 第 1 章 インストールから、認証手続きまでの流れ..... 6
1-1 インストールの順序..... 6
1-2 サーバープログラムを使用しない場合..... 6
1-3 サーバープログラムを使用する場合..... 7
■ 第 2 章 インストール方法..... 9
2-1 基本的なインストール 9
2-2 一時保存領域の追加.....19
■ 第 3 章 操作方法.....22
3-1 プロテクトモードにする方法.....22
3-2 プロテクト解除モードにする方法.....24
3-3 一時保存領域が一杯になった場合 26
■ 第 4 章 認証手続きの方法.....27
4-1 認証手続きの種類.....27
4-2 認証手続きの方法.....28
■ 第 5 章 一時保存領域のサイズ変更.....37
■ 第 6 章 一時保存領域の削除 39
■ 第 7 章 アンインストール方法.....41
■ 第 8 章 FAQ（よくあるご質問とその答え） 43
■ 第 9 章 応用事例.....49
9-1 クローニングについて 49
9-2 移動プロファイル環境での使用 49
9-3 RAID への対応.....49
9-4 サーバーへの導入事例 50
9-5 ウイルス駆除ソフトとの併用について.....51
■ 第 10 章 ユーザーサポートについて 53

■ 始めに

※ 本製品は［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］機能に対応したバージョンです。 従来のバージョンと同様に、スタンドアロン環境での使用も可能です。

※ この製品をご使用いただくには、認証手続きが必要です。認証手続きの方法についてはこの取扱説明書に添ってご説明させていただきます。

● 本製品の内容

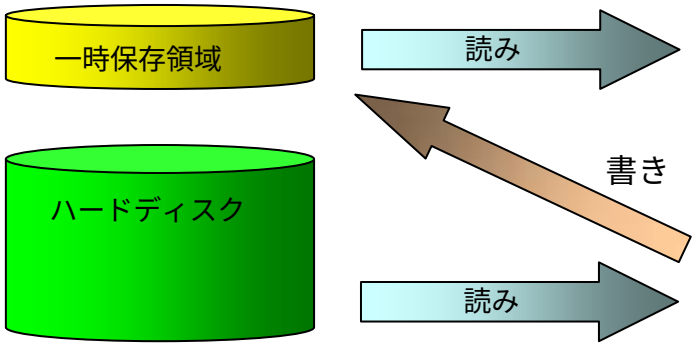
・ インストール用フロッピーディスク（クライアントプログラム）

※ サーバープログラムは、別製品となります（無料）

（本製品はクライアント用プログラムです。 **［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］**の機能をご利用いただくには、別途 **サーバープログラム** が必要となります。**［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］**の機能が必要ない場合は、本製品のみで大丈夫です） **サーバープログラム** は、無償にてご提供させていただいております。ご必要な場合は弊社までお問合せください。

● ドライブシールドとは？

・ **ドライブシールド** は、ソフトウエアによるハードディスクのプロテクトツールです。ドライブシールドをインストールしたコンピュータをプロテクトモードで起動すると、ハードディスクへの書き込みや削除、設定変更等の操作は一切禁止されます。 しかし、それらの操作情報は一時保存エリアに蓄積されていくため、一見通常と変わりないコンピュータの操作が可能です。 コンピュータの電源を再スタートすると、一時保存エリアに蓄積されたこれらのデータはリセットされ、初期状態の環境が復元されます。パーティションが複数ある場合は、プロテクトするかしないかの設定をパーティション毎に行う事が可能です。



プロテクトモード時の動作イメージ

ドライブシールド のプロテクト機能は、お客様が設定したパスワードにより解除が可能です。 プロテクトを解除した状態では、通常のコンピュータを同様に書き込みや削除、設定変更が可能です。

この、プロテクトをした状態を、

[プロテクトモード]

プロテクトを解除した状態を、

[プロテクト解除モード]

と、呼びます。

- ハードディスクの C:ドライブ以降のパーティションについても、プロテクトの対象にする事が可能です。

- インストールは非常に簡単です。

［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］とは？

コンピュータ教室等にて、複数台のコンピュータにドライブシールドをインストールして使用する場合、プロテクトのロック、解除の操作を一台一台行うのは、非常に大変な作業となります。
また、ドライブシールドをご使用いただくには、インストール後、認証手続きが必要となりますので、この作業についても同様の事が言えます。

［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］は、これらの作業を、サーバープログラムをインストールした１台のコンピュータから、クライアントプログラムをインストールした複数台のコンピュータに対し、一括で行う事が出来るので大変便利です。

● ドライブシールドの導入事例

【学校のコンピュータ教室】

※ 学校のコンピュータ教室では、1 台のコンピュータに対して大勢の児童、生徒、学生が利用する例が多く、各自が壁紙やコントロールパネルの設定変更等を行ってしまうと、環境がばらばらになってしまい、授業に支障をきたしてしまいます。 また、一度ばらばらになった環境を元に戻すのは非常に大変な作業です。 しかし、ドライブシールドがインストールされていれば、再起動するだけで簡単に初期の状態に戻す事が可能なので、安心して授業を行う事が出来、先生の管理の手間も大幅に削減する事が出来ます。

【図書館の検索用コンピュータや、ショールーム、販売店の展示コーナー】

※ このような場所で使用されるコンピュータは、不特定多数の方が操作しますので、単純な操作ミスや、故意によるいたずらにより、コンピュータに重大な障害が発生する事が考えられます。 図書館の検索用コンピュータ等での障害の場合、業務に重大な支障をきたしますし、ショールームや販売店等での展示品の場合、お客様への販促効果が半減してしまいます。 しかし、ドライブシールドが入っていれば、障害が発生しても、再起動するだけの簡単な操作で正常な状態に戻す事が可能です。

【インターネットカフェ】

※ インターネットカフェのコンピュータでは、前述の理由の他、お客様が利用した痕跡（ブラウザの履歴や保存されたパスワード、メールの内容、等々・・・）を次のお客様に見られてしまう心配があります。 そのような場合、プライバシーの問題にも関わりますので、利用するお客様自身も内心不安かもしれません。 しかし、ドライブシールドが入っていれば、再起動するだけで簡単に前のお客様の使用履歴を跡形も無く消す事が可能です。 ドライブシールドがインストールされている事をお客様にアピールしていただければ、お客様の安心感にも繋がると考えられます。

【パーソナルユーザー様】

※ コンピュータを長期間使っていると、様々な要因で徐々にシステムが壊れてしまい、コンピュータの動作が不安定になる事があります。 そのような場合は、ハードディスクを一旦フォーマットし、OS の再インストールをすれば大抵の場合は問題が解消します。しかし、これは初心者にはなかなか難しい作業です。 もし、ドライブシールドがインストールされていれば、プロテクトモードで起動している間は仮にシステムがトラブルを起こして不安定になっても、再起動するだけの簡単な操作で、元の安定した状態に戻す事が可能です。

● 製品の種類

（クライアントプログラム）

ドライブシールド 型番	対応 コンピュータ	対応 OS
CDS-9MDT-NC	デスクトップ型コンピュータ	Windows 95, 98, Me
CDS-N2DT-NC	デスクトップ型コンピュータ	Windows NT, 2000, XP
CDS-9MLT-NC	ラップトップ型（ノート型）コンピュータ	Windows 95, 98, Me
CDS-N2LT-NC	ラップトップ型（ノート型）コンピュータ	Windows NT, 2000, XP

（サーバープログラム）

ドライブシールド 型番	対応 コンピュータ	対応 OS
CDS-NCLM	デスクトップ型コンピュータ ラップトップ型コンピュータ	Windows 98, Me, NT, 2000, XP （Windows 95 は不可）

※ サーバープログラムは別製品となります。 無償にてご提供しております。ご必要な場合は弊社までお問合せください。

● 動作条件

（クライアントプログラム）

- **コンピュータ：** PC/AT 互換機（ノート PC でも利用可）
- **OS：** Windows95、Windows98、WindowsMe、Windows NT4.0、Windows 2000、WindowsXP
- **ネットワークプロトコル：** TCP/IP
- **ハードディスク：** 500MB 以上の空きが必要です。
- **サーバープログラムを使わずに、Web での認証手続きを行う場合：** コンピュータにインターネットエクスプローラの 4.01 以上のバージョンがインストールされている必要があります。 更に、コンピュータがインターネットに接続されており、SSL 通信が可能である必要があります（一般的に SSL 通信が可能な環境は多いですが、ファイヤーウオール環境下等では、ファイヤーウオールの設定等により不可の場合もあります）

（サーバープログラム）※ 別製品です。

- **コンピュータ：** PC/AT 互換機（ノート PC でも利用可）
- **OS：**Windows 98、 Me、NT4.0、Windows 2000、 WindowsXP（Windows 95 は不可）
- **ネットワークプロトコル：** TCP/IP
- **ハードディスク：** 10MB 以上程度の空きが必要です。
- **コントロール可能なクライアント数：** 1,000 台まで（将来拡張予定）
- **サーバープログラムによる一括認証を行う場合：** ライセンス情報を取得する際に、インターネットへの接続が必要です（ポート TCP 443 番を使用します）また、インターネットエクスプローラの 4.01 以上がインストールされている必要があります。（ライセンス情報を取得後は、インターネットの接続は必要ありません）

※ 以下は、［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］の機能を使用する場合に必要な条件です。

（LAN）

- **プロトコル：** TCP/IP
- **ポート：** 25010 ～ 25792 から任意の番号を選択出来ます（デフォルトは 25555）

（インターネット接続）

- **プロトコル：** TCP/IP
- **ポート：** 443（SSL）

（このインターネット接続の条件は、サーバープログラムが、最初にインターネット上の弊社のサーバーから認証情報を取得する際のみ必要です。常時必要ではありません）

● ご注意

- 本プログラムは入念な動作テストをした上、十分に安全性を確認していますが、万が一の場合に備え、本製品をインストールする前にハードディスク内の重要なデータはバックアップを取っていただく事をおすすめいたします。 万が一問題がおきましても弊社では一切の責任を負いかねます事ご理解いただけますようお願い致します。

■ 第 1 章 インストールから、認証手続きまでの流れ

このソフトウエアをインストールすると、最初は 30 日間の試用版として動作します。
その後、正式登録を完了すると正式版として使用出来ます。

1-1 インストールの順序

[ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー] 機能を**使用しない場合**は、クライアントプログラムのみをインストールしていただくだけで結構です。サーバープログラムは必要ありません。

[ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー] 機能を**使用する場合**は、クライアントプログラムのインストールの他、サーバーとなるコンピュータには、サーバープログラムのインストールが必要です。 これらのどちらを先にインストールしても構いませんが、最初にサーバープログラムをインストールしておいて、その後クライアントプログラムをインストールしていく順序の方が、サーバープログラムの画面で、クライアントプログラムが正常にインストールされているかどうか確認しながら行えるので、確実な作業が行えると思われます。

1-2 サーバープログラムを使用しない場合

(1) 認証手続きの簡単な流れ

ドライブシールドをインストールしてから認証手続きが完了までの流れは、以下のようになります。

① ドライブシールドをインストールする。

⇩

② この時点で 30 日の試用版として使用出来ます。

⇩

③ インストール後に表示されるシリアルコードと、製品添付のオーダーコードを元に、認証を行う（Web かメール、又は郵送の 3 種類の方法があります。詳しくは追ってご説明致します）

⇩

④ 認証を完了すると、30 日間の試用制限が解除され、正式版として使用出来るようになります。

(2) 認証手続きの方法

認証手続きの方法は下記の 3 種類がございます。それぞれの詳細については、本ガイドでご説明させていただきます。

① インターネットを利用した認証手続き

（ドライブシールドをインストールするコンピュータがインターネットに接続された環境ではこれが最も速く簡単な方法です）

② メールによる認証手続き

（ドライブシールドの操作メニューから、認証情報をフロッピーに書出した上、その内容をメールに添付して送っていただき、弊社での認証手続き後、認証コードを返送する方法です。ドライブシールドをインストールするコンピュータがインターネットに繋がっていないが、近くにメールの送受信が出来るコンピュータがある場合にはこの方法が便利です）

③ 郵送による認証手続き

（ドライブシールドの操作メニューから、認証情報をフロッピーに書出した上、そのフロッピーを弊社に送っていただき、弊社での認証手続き後、認証コードが入ったフロッピーを返送する方法です。インターネット環境が全く無い環境にはこの方法をご利用ください）

1-3 サーバープログラムを使用する場合

(1) 認証手続きの簡単な流れ

① ドライブシールド サーバープログラム、クライアントプログラムをそれぞれインストールする。

⇩

② クライアントプログラムはこの時点で 30 日の試用版として使用出来ます。

⇩

③ サーバープログラムにて、インターネット経由でライセンス情報を取得する。

⇩

⇩

④ サーバープログラムから、LAN 経由で各クライアントプログラムにライセンス情報を配信する。

⇩

⑤ 認証を完了すると、クライアントプログラムは 30 日間の試用制限が解除され、正式版として使用出来るようになります。

(2) 認証手続きの方法

［サーバープログラム インストール／操作ガイド］で詳しくご説明致します。

■ 第 2 章 インストール方法

本章について

※［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］環境で使用する場合も、スタンドアロン環境で使用する場合も本章の作業は必要です。

旧バージョンからのアップデートの場合

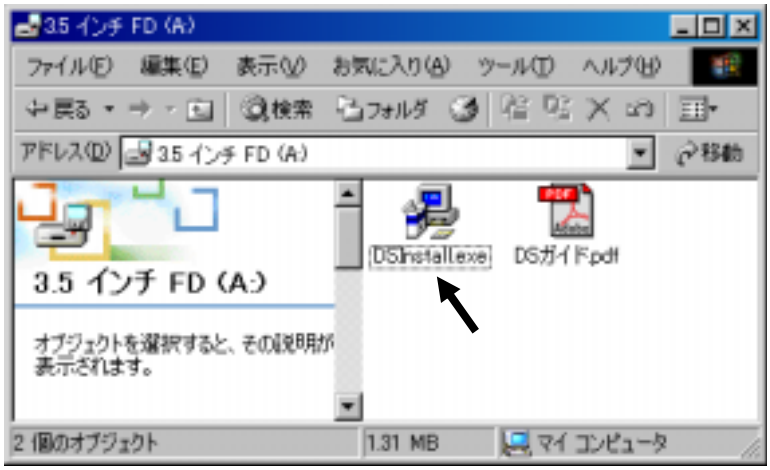
旧バージョンからのアップデートの場合は、一旦 41 ページの［第 7 章 アンインストール方法］をご参照いただきながら、アンインストールを行ってください。 旧バージョンであっても、最新ドライバでアンインストール可能です。
アンインストール後は、以下の手順に添ってインストール可能です。

2-1 基本的なインストール

(1) WindowsNT 、2000、XP の場合は、Administrator 権限でログオンしてください。また、作業中の未保存のデータがあれば予め保存しておいてください。

(2) フロッピーディスクの中の、DSInstall.exe（コンピュータの表示設定によっては、DSInstall と表示される場合もあります）をダブルクリックします。

※ 下の画面は、実際のものとは一部異なる場合もあります。

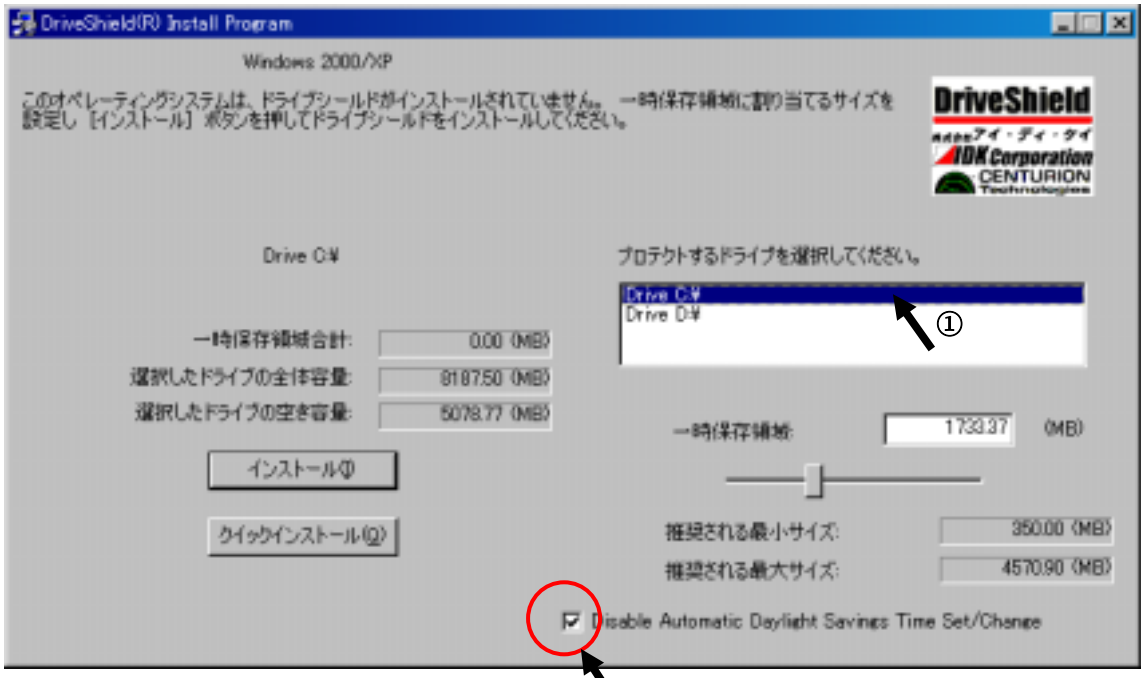


(3) 次のメッセージが表示されます。インストールを進めるには、ここで[OK]をクリックします。

認証手続き／ご利用条件について

このプログラムをインストールすると、始めに「ドライブシールド全機能 30 日間試用版」として使用出来ます。その間に認証手続きを行わなかった場合、30 日後にこのプログラムは機能しなくなります。また、このプログラムをインストールする事によって万が一発生した損害に対し、株式会社アイ・ディ・ケイは、一切の責任を追いかねます。この点に同意していただいたお客様は、[OK]をクリックし、インストールを進めてください。

(4) 次のインストール画面が表示されます。



チェックは付けたままにしてください。

(5) 上の画面右に標示される欄にて、プロテクトしたいドライブを選択します**（矢印 ①）**。（何も選択しない場合は、C:ドライブが選択されます）

その際、画面右**[一時保存領域]**の欄にはこれからインストールする一時領域のサイズが表示されますが、基本的にはそのままのサイズで結構です。意図的に変更されたい方は、その下のレバーを動かすか、数字を直接書き換えてください。（約 350MB～4000MB の範囲で調整可能です）

注意

「C:ドライブのみを保護し、D:ドライブは保護しない」という設定を行う場合は、ここで C:ドライブを選択してください。

また、3 個以上のドライブがあり、「C:ドライブと D:ドライブは保護し、E:ドラ

イブは保護しない」という設定を行う場合も、一旦ここで C:ドライブを選択してください。

解説

一時保存領域が作成されたドライブは、プロテクトモード時、プロテクトの対象となります。 一時保存領域が作成されていないドライブは、プロテクトモード時でもプロテクトの対象となりません。

※ データ保存用に使用するドライブは、一時保存領域を作成しないでください。

※ Disable Automatic Daylight Savings Time Set/Change のチェックボックスの**チェックはつけたままにしておいてください**。 これは、**サマータイム**の切り替え時期に、時計の自動調整機能がついたコンピュータに対応する為の機能を、有効にするか、無効にするかの選択です。 日本国内での使用では、チェックをつけてください（チェックをつけると無効になります）

(6) **[インストール]**をクリックします。

補足

ハードディスクの空き容量が、2GB 程度以上有る場合、約 1,600MB～1,700MB（1.6GB～1.7GB）がデフォルトで表示されます。通常はこの容量で十分ですが、非常に大きなデータを取扱う作業を連続して行う場合や、長時間連続使用する事が予想され、なおかつハードディスクの空き容量が十分にある場合は、最大の 4GB の設定を行う事をおすすめします。

注意

一時領域をインストールしようとするパーティション内に、350MB 未満の空き容量しかない場合、容量不足の状態を忠告するエラーメッセージが表示されますが、**[はい]**で進めるとインストールできます。しかし、そのような環境でのご使用はおすすめ出来ませんので、コンピュータの環境の見直しをご検討ください。

(7) 次のメッセージが表示されます。

全てのドライブ・パーティションをプロテクトしますか？

全てのドライブ ・ パーティションを、デフォルトサイズの一時保存領域でプロテクトしますか？ （はい ＝ 全てプロテクト いいえ ＝ 選択した 'アクティブ' ドライブのみをプロテクト）

先程選択したドライブのみプロテクトしたい場合は、ここで**[いいえ]**を選択します。全てのドライブをプロテクトしたい場合はここで**[はい]**をクリックします。一時領域の作成が始まります。

補足

① **[はい]** をクリックした場合は、全てのドライブに対し、デフォルトのサイズ（1.6GB～1.7GB）で一時保存領域が作成されます（手動でサイズを設定した場合も、強制的にデフォルトサイズになってしまますので、ご注意ください）

② もし、全てのドライブに対し、一時保存領域のサイズを手動で設定したい場合は、ここで一旦 **[いいえ]** を選択し、残りのドライブは、19 ページ **2-2 一時保存領域の追加** の手順に添って、一時保存領域の**[作成]**を行ってください。

③ 「C:ドライブのみを保護し、D:ドライブは保護しない」という設定を行う場合は、ここで必ず**[いいえ]**を選択してください。
また、3 個以上のドライブがあり、「C:ドライブと D:ドライブは保護し、E:ドライブは保護しない」という設定を行う場合も、ここで必ず**[いいえ]**を選択し、インストール後に、19 ページ **2-2 一時保存領域の追加** の手順に添って、D:ドライブの一時保存領域の**[作成]**を行ってください。

一時領域の作成は非常に時間がかかる場合があります。また、例えば 3 個のパーティションに一時領域を作成する場合は、一時領域の作成画面が順に 3 回表示されます。
一時領域の作成が終わったら、**[閉じる]**ボタンを押してください。ファイルのコピーが始まります。

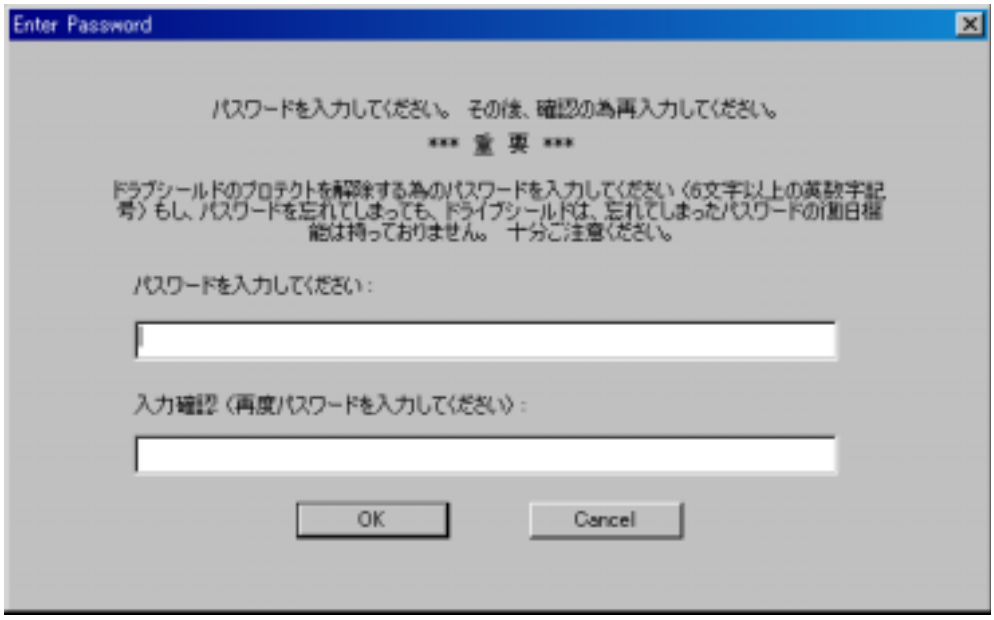
注意

① ドライブを選択する際、C:（又はシステムのあるパーティション）は選択せずに、それ以外のドライブのみを選択する事もできますが、特別な理由のない限りその

ような使用は安全上おすすめできません。通常は C:、又はシステムのあるパーティションはプロテクトの対象としてください。

② MO や、ZIP、CD-RW 等は保護の対象とする事は出来ません（インストーラの画面にもこれらのドライブは表示されません）

(8) 次のウインドウが表示されますので、ここにプロテクトを解除する為のパスワードを入力します（6 文字以上の英数字か記号）更に、確認の為、下の欄にも同じパスワードを入力し、その後 OK をクリックします。

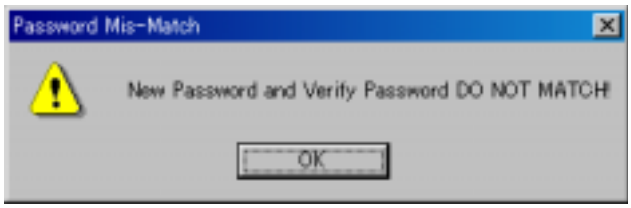


重要！

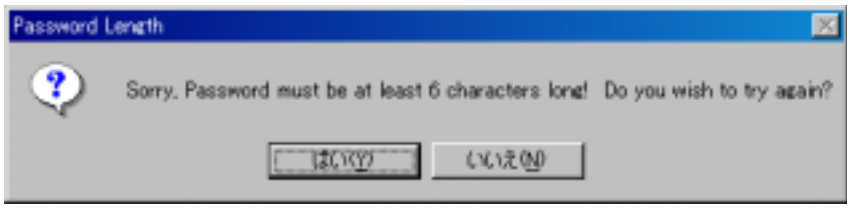
パスワードは絶対に忘れないようにご注意ください。
また、[ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー]環境で一括操作を行う場合は、全てのクライアントのパスワードを共通にしてください。

※ エラーメッセージが表示された場合・・・

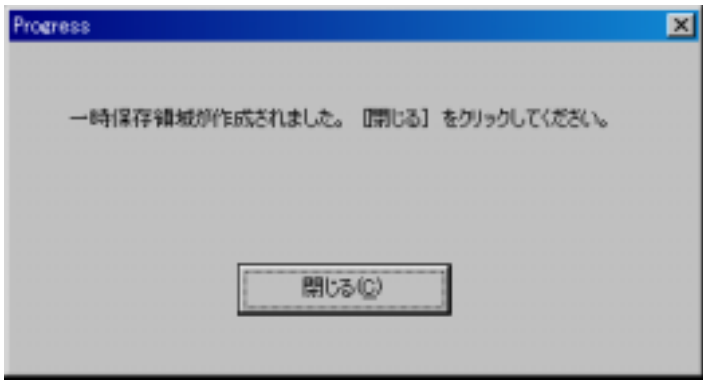
パスワードを上段と下段とで異なって入力した場合、次のエラーメッセージが表示されます。



パスワードが短すぎた場合、次のエラーメッセージが表示されます。パスワードは 6 文字以上の英数字か記号を入力してください。



(9) パスワードが正しく入力された上で、[OK]をクリックすると、一時保存領域の作成が始まります。 一時保存領域の保存が完了したら、下の画面が表示されますので、最後に[閉じる]をクリックしてください。



※ 一時保存領域の作成は非常に時間がかかる場合があります。 一時保存領域作成中には、絶対にコンピュータを電源を落としたり、再起動を行ったりしないでください。

(10) 次のメッセージが表示されます。

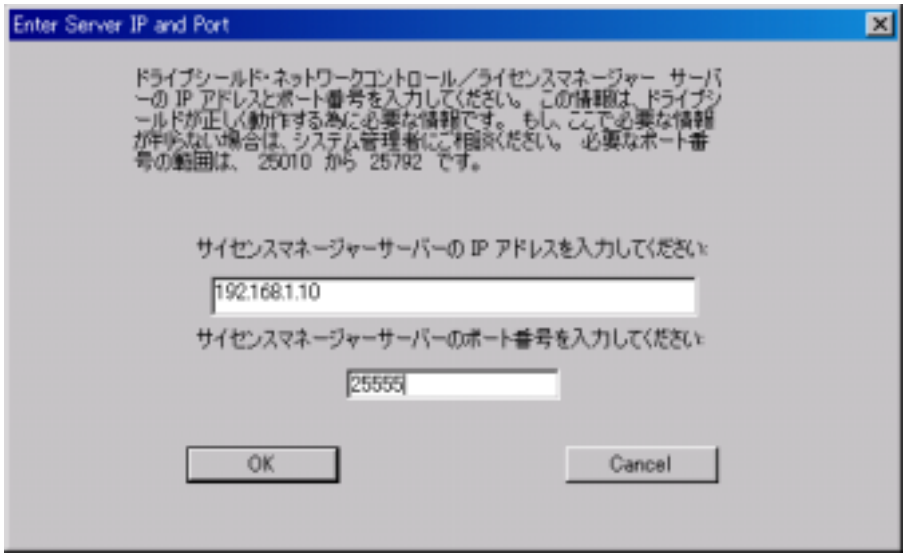
ネットワークコントロール／ライセンスマネージャーを有効にしますか？

ここで「ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー」の機能を有効にする事が出来ます。 今、これを有効にしますか？ （これを有効するには、サイセンスマネージャーサーバー のサーバーネーム又は IP アドレスと、使用するポート番号を知っている必要があります。） 有効にする場合は、[はい] 、有効にしない場合は［いいえ］をクリックしてください。

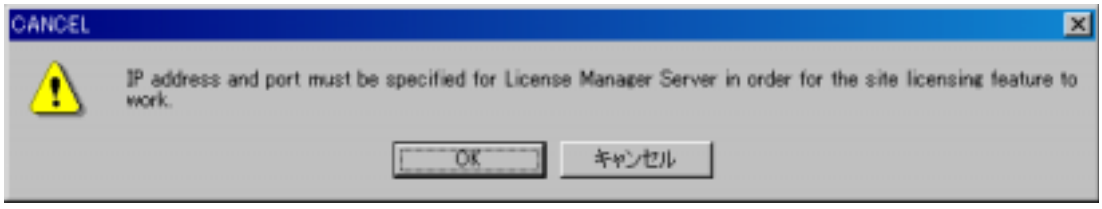
重要！

［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］を利用する場合（コントローラを使用する場合）は、ここで[はい]をクリックしてください。
クライアントプログラム単体（サーバープログラムを使用しない場合）はここで必ず[いいえ]をクリックしてください。

(11) **[はい]**をクリックした場合、次の画面が表示されます。（**[いいえ]**をクリックした場合は、次の画面は表示されませんので、次の (12) に進んでください）サーバープログラムをインストールするコンピュータの IP アドレスを､以下のような書式で入力してください(数字とピリオド）また、サーバープログラムをインストールした（する）際に設定した（する）ポート番号を入力してください。サーバープログラムのポート番号は、デフォルトで **25555** となります。
最後に**[OK]**をクリックしてください。



※ もし、ここで、**[Cancel]** をクリックすると、下の画面が表示されます。



ここで**[OK]** を押すと、再度上の画面に戻ります。 **［キャンセル］** を押すと、[ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー] が無効の状態でインストールされます。

(12) WindowsMe コンピュータにインストールしている場合は、一旦 (16)～(18)へお進みください。それ以外の OS の場合はそのまま 次の(13) にお進みください。

(13) 次のメッセージが表示されます。

BIOS の設定変更

より確実なセキュリティーを得る為に、このコンピュータの BIOS の設定変更を行う事をおすすめします。BIOS の起動順位の設定にて、ハードディスクを 1 番 にし、2 番目以降にフロッピーや、CD-ROM 、その他のリムーバブルメディアを設定してください。 更に BIOS の管理者パスワードを設定し BIOS へのアクセスを制限してください。

上記のメッセージのとおり、ドライブシールドの一通りのインストール完了後、コンピュータの BIOS の設定を次の様に変更する事をおすすめします （個人で使用するコンピュータでは、多くの場合特に必要ではないと思われますが、不特定多数の方が使用するコンピュータでは強くおすすめ致します）

① BIOS の起動順位の設定にて、ハードディスクを一番先頭にする。

② フロッピーや、CD-ROM の起動順位はその後に設定する。
（上記の設定を行う事により、フロッピーや、CD-ROM 等にてコンピュータを起動されてしまうのを防ぐ事が出来ます）

③ 最後に、BIOS の管理者パスワードを設定し、BIOS のアクセス制限を行う事をおすすめ致します。
（BIOS に設定したパスワードは絶対に忘れないようにしてください！！）

上記の設定が必要な理由

ドライブシールドがプロテクトモードの状態であっても、CD-ROM や フロッピーにてコンピュータを起動されてしまうと、ハードディスクのプロテクトは働きません。そこで、コンピュータの BIOS にて、CD-ROM や フロッピーからの起動順位をハードディスクより下げ、なおかつ、BIOS へのアクセスをパスワードで制限してしまえば、CD-ROM や フロッピーでの起動を完全に防ぐ事が出来、より安全性の高い運用が可能となります。

※ BIOS の設定方法についてはコンピュータの機種により異なりますので、コンピュータやマザーボードのマニュアルをご参照いただけますようお願い致します。

(14) 次のメッセージが表示されます。**[はい]**をクリックして再起動してください。もし、何らかの理由により、後で再起動したい場合は、**[いいえ]**をクリックし、後で再起動してください。

再起動してください

処理が完了しました！ 処理を反映する為に再起動してください。［はい］をクリックするとすぐに再起動します。［いいえ］をクリックした場合は、後で再起動してください。［はい］をクリックした場合は、未保存のデータが有る場合も強制的に再起動されますのでご注意ください。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

(15) **[はい]**をクリックすると、更に確認の為、次のウインドウが表示されますので、ここで **[はい]**をクリックしてください。もし、何らかの理由により、後で再起動したい場合は、**[いいえ]**をクリックし、後で再起動してください。

(16) **WindowsMe コンピュータにインストールする場合。**
WindowsMe コンピュータにインストールする場合、(11)の手順の後、以下のようなメッセージが表示されます。

一部の WindowsMe コンピュータでは、ドライブシールドをインストールする事により、コンピュータが起動時、WindowsMe のロゴ画面より先に進まなくなってしまう問題が確認されています。その対策として、WindowsMe 起動時のロゴ画面の表示をしないという設定を Windows 側に施す事により回避出来ます。
上記画面の **Apply 'Fix' as described above** のチェックを入れて**[OK]**を押す事により、この WindowsMe 起動時のロゴ画面が表示されなくなります。

(17) **Apply 'Fix' as described above** にチェックをつけて**[OK]**を押した場合、そのまま前の (13) の手順にお進みください。**(この方法をおすすめ致します)**

(18) **Apply 'Fix' as described above** のチェックを外して**[OK]**を押した場合、以下のメッセージが表示されます。**[はい]**を押すとそのままインストールが進みますので、次に、前の(13) の手順にお進みください。**[いいえ]**を押すと、前の画面に戻ります。

以上でクライアントプログラムのインストールの完了です。

2-2 一時保存領域の追加

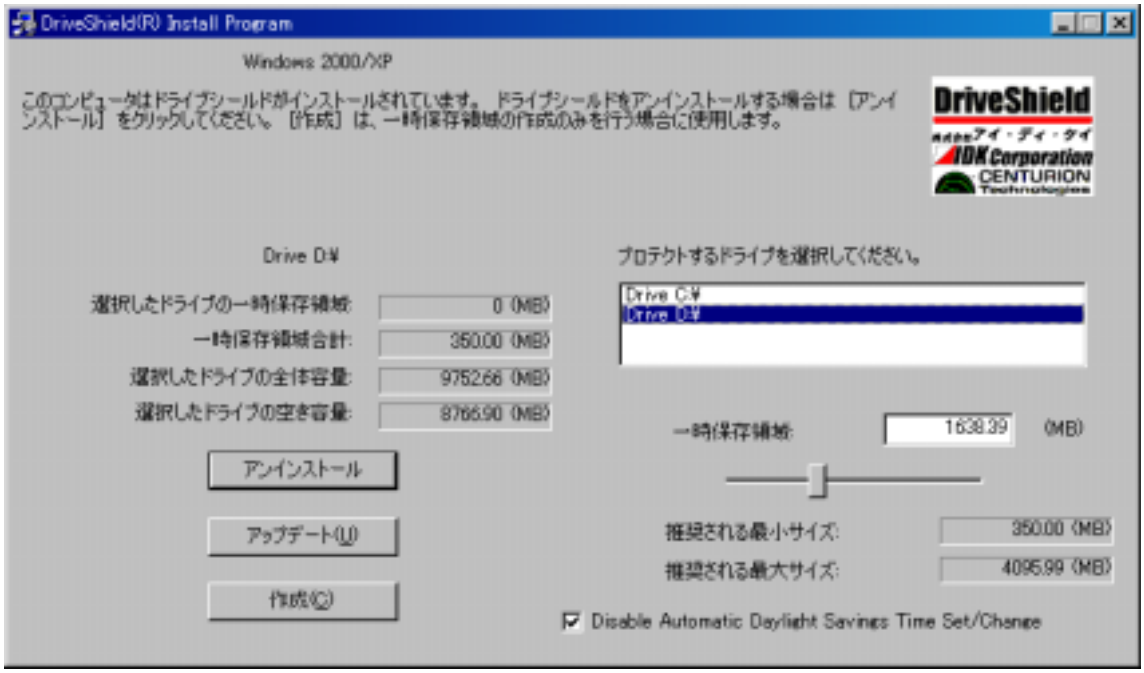
一時保存領域の追加作成の方法についてご案内致します。一時保存領域が作成されたドライブは、プロテクトモードにした際、プロテクトの対象となります。

本ガイドでの例

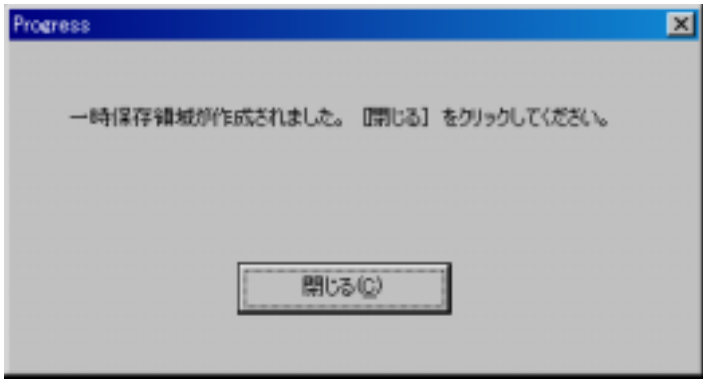
ここでは、既にドライブシールドのインストールは完了し、C:ドライブには一時保存領域がインストールされていて、新たに D:ドライブに一時保存領域を追加する手順を例にとってご説明致します。

(1) 9 ページ **2-1 基本的なインストール** の手順に添って、インストール画面を起動します。

(2) 次の画面が表示されます。ここで、D:ドライブ（新規に一時保存領域をインストールするドライブを選択します。すると、画面左下に［**作成**］ボタンが表示されます。



(3) [**作成**] ボタンをクリックします （一時保存領域を調整する場合は、[**一時保存領域**]欄に容量を直接入力するか、その下のレバーを調整して容量を決めてください）
作成が完了すると、次の画面が表示されます。ので、[**閉じる**] をクリックします。



(4) 次のメッセージが表示されます。**[はい]**をクリックして再起動してください。もし、何らかの理由により、後で再起動したい場合は、**[いいえ]**をクリックし、後で再起動してください。

再起動してください

処理が完了しました！ 処理を反映する為に再起動してください。［はい］をクリックするとすぐに再起動します。［いいえ］をクリックした場合は、後で再起動してください。［はい］をクリックした場合は、未保存のデータが有る場合も強制的に再起動されますのでご注意ください。

他にも一時保存領域を作成したいドライブがある場合は、ここで**[いいえ]**をクリックし、(1)～(3)の作業を繰り返します。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

(5) 再起動後、一時保存領域の追加が反映されます。

■ 第 3 章 操作方法

本章について

ここでは、クライアントプログラム単体での操作方法をご説明致します。 サーバープログラムによる操作は、別途［サーバープログラム インストール／操作ガイド］をご参照いただけますようお願い致します。 なお、［ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー］を有効にしてインストールした場合でも、以下の操作（スタンドアロンでの操作）は可能です。

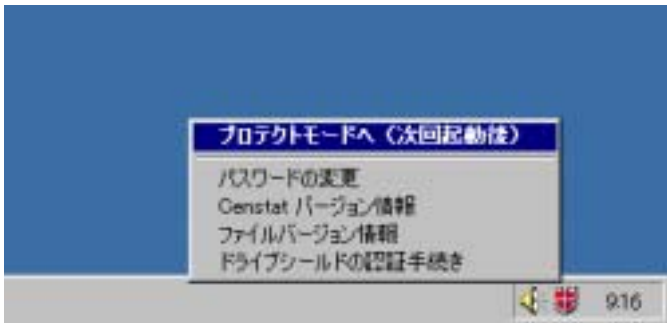
3-1 プロテクトモードにする方法

プロテクトモードについて

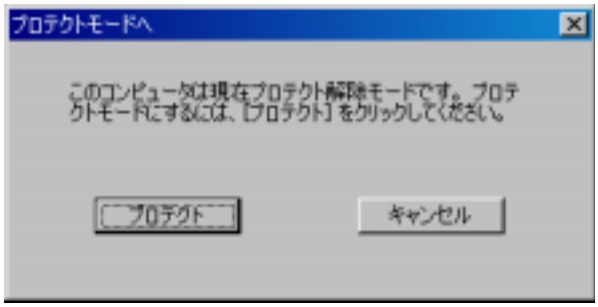
プロテクトモードでコンピュータを使用すると、一見通常の操作が可能ですが、再起動後は全ての操作が無効になり、プロテクトモードに切換えた初期の状態に戻ります。

(1) ドライブシールドがプロテクト解除モードの時は、下の画面のように、タスクバーの右側に赤色の盾のアイコンが表示されます。この赤色の状態は現在プロテクト解除モードで起動している事を示します。（下図の矢印で示したアイコンです）

(2) このアイコンを右クリックすると、ポップアップメニューが現れますので、その中の**［プロテクトモードへ（次回起動後）］**を選択するか、盾のアイコンをダブルクリックします。



(3) 次のウインドウが表示されますので、**[プロテクト]**をクリックします。



(4) 更に次のメッセージが表示されますので、**[はい]**をクリックしてください。再起動をします（なお、ここで**[いいえ]**をクリックすると、再起動しません。その場合は、後で手動にて再起動してください）

プロテクトモードになります。

操作は完了しました。 再起動後、プロテクトモードになります。 [はい] をクリックすると直ぐに再起動します。 [いいえ] をクリックした場合、後で手動で再起動してください。 未保存のデータが有る場合も、強制的に再起動されますのでご注意ください。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

(5) **[はい]**を選択すると、再確認の為、以下のメッセージが表示されます。本当に再起動しても良い場合は、**[はい]**を押してください。**[いいえ]**を押すと再起動しませんので、その場合は後で手動による再起動を行ってください。

確認

本当にいいですか？ [はい] クリックすると直ぐに再起動します。[いいえ] をクリックした場合は後で再起動してください。

(6) これで、コンピュータ が再起動後、プロテクトモードで起動します。 プロテクトモードで起動した場合は、タスクバー右側の盾アイコンが表示されなくなります。

3-2 プロテクト解除モードにする方法

プロテクト解除モードについて

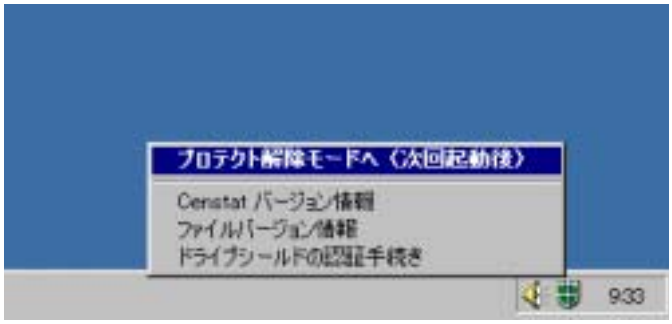
プロテクト解除モードの場合、ドライブシールドが入っていない状態と同様の状態でコンピュータを使用できます。システムのアップデートや、ソフトウエアの追加インストール等も可能です。

(1) キーボードの **Ctrl** + **Alt** + **F10** キーを押すと、タスクバー右側に緑色の盾アイコンが 15 秒間表示されます。
15 秒後に消えますが、再度 **Ctrl** + **Alt** + **F10** を押すと、また表示さます。

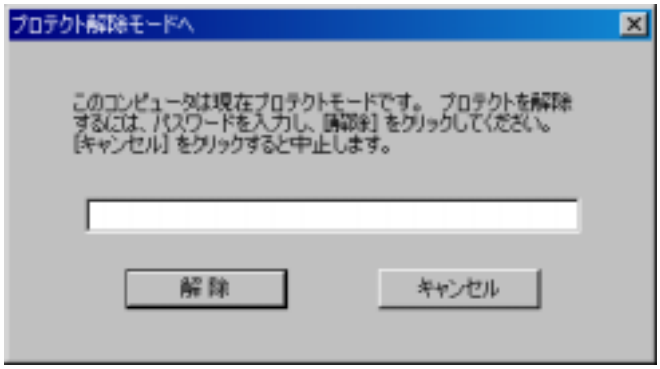
この緑色の状態は現在プロテクトモードで起動している事を示します。
（下図の矢印で示したアイコンです）

緑色の盾のアイコン

(2) このアイコンを右クリックすると、ポップアップメニューが現れますので、その中の **[プロテクト解除モードへ(次回起動後)]** を選択するか、盾のアイコンをダブルクリックします。



(3) 次のウインドウが表示されますので、インストール時に設定したパスワードを入力し、**[解除]**をクリックします。



(4) 下のウインドウが表示されますので、**[はい]**をクリックしてください。再起動をします。**[いいえ]**を押すと再起動しませんので、その場合は後で手動による再起動をしてください。

プロテクトが解除されます

操作は完了しました。再起動後、プロテクト解除モードになります。[はい]をクリックすると直ぐに再起動します。[いいえ]をクリックした場合、後で手動で再起動してください。 未保存のデータが有る場合も、強制的に再起動されますのでご注意ください。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

(5) **[はい]**を選択すると、再確認の為、以下のウインドウが表示されます。本当に再起動しても良い場合は、**[はい]**を押してください。**[いいえ]**を押すと再起動しませんので、その

場合は後で手動で再起動を行ってください。

確認

本当にいいですか？ [はい] クリックすると直ぐに再起動します。 [いいえ] をクリックした場合は後で再起動してください。

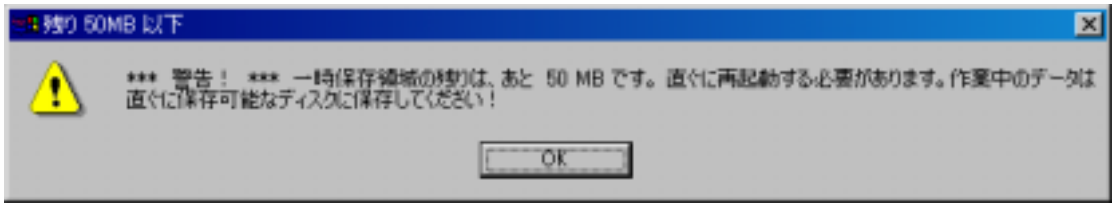
(6) これで、コンピュータ が再起動後、プロテクト解除モードで起動します。プロテクト解除モードで起動した場合は、タスクバー右側に**赤色**の盾アイコンが表示されます。

※ パスワードを 3 回連続して間違えると、それ以上試す事が出来なくなります。3 回以上間違えた場合は、一旦コンピュータを再起動すると又試す事が出来ます。

3-3 一時保存領域が一杯になった場合

プロテクトモードで大きな作業を長時間行っていると、次第に一時保存領域が一杯になってきます。 一時保存領域の残りが 100MB を切ると、以下のようなメッセージが表示されます。

更に、一時保存領域の残りが 50MB を切ると、以下のメッセージが表示されます。



試しに、プロテクトモードで起動中に、一時保存領域を越える容量のデータのコピーを行うと、確実にこれらのメッセージが表示されます。 しかし、日常的なアプリケーションの操作では、余程長時間の連続使用をしない限り、滅多に表示される事はありません。 もし、これらのメッセージが表示された場合、出来るだけ早く未保存のデータを保存した後、コンピュータの再起動を行ってください。 再起動すると、一時保存領域がリセットされます。また、このメッセージが頻発するような場合は、一時保存領域の拡大をお試しください（詳しい方法は、37 ページ **第 5 章 一時保存領域のサイズ変更** をご参照ください）

■ 第 4 章 認証手続きの方法

本章について

[ネットワークコントロール／ライセンスマネージャー] 機能を有効にし、サーバーによる認証を行う場合は、本章の内容は不要です。スタンドアロン環境で認証を行う場合のみ本章の作業を行ってください。

4-1 認証手続きの種類

認証手続きには以下の 3 種類の方法があります。お客様のご都合に合わせ、適当な方法を選択してください。

① インターネットを利用した認証手続き

（ドライブシールドをインストールするコンピュータがインターネットに接続された環境ではこれが最も速く簡単な方法です）

② メールによる認証手続き

（ドライブシールドの操作メニューから、認証情報をフロッピーに書出した上、その内容をメールに添付して送っていただき、弊社での認証手続き後、認証コードを返送する方法です。ドライブシールドをインストールするコンピュータがインターネットに繋がっていないが、近くにメールの送受信が出来るコンピュータがある場合にはこの方法が便利です）

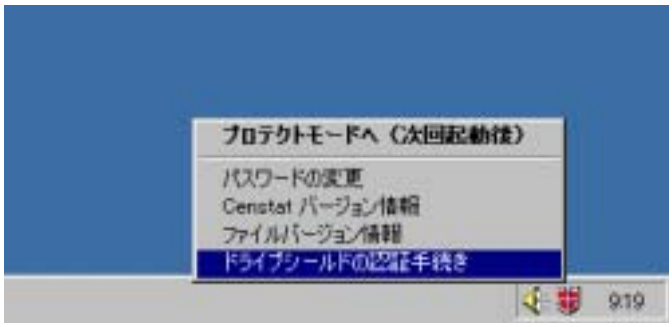
③ 郵送による認証手続き

（ドライブシールドの操作メニューから、認証情報をフロッピーに書出した上、そのフロッピーを弊社に送っていただき、弊社での認証手続き後、認証コードが入ったフロッピーを返送する方法です。インターネット環境が全く無い環境にはこの方法をご利用ください）

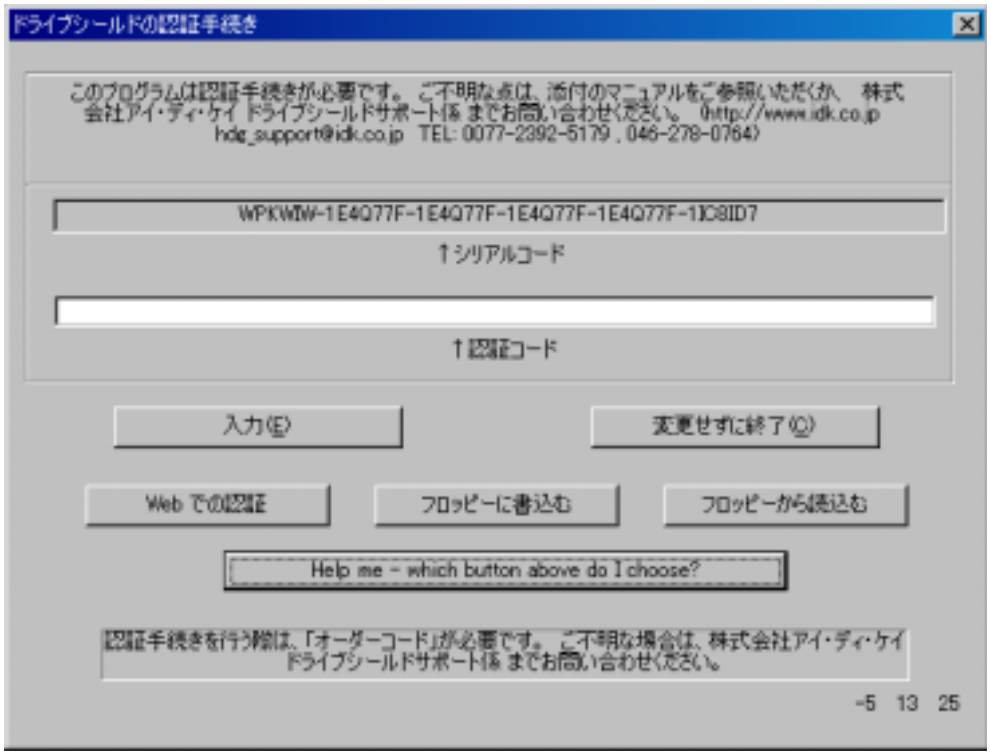
4-2 認証手続きの方法

4-2-1 インターネット（Web）による認証手続き

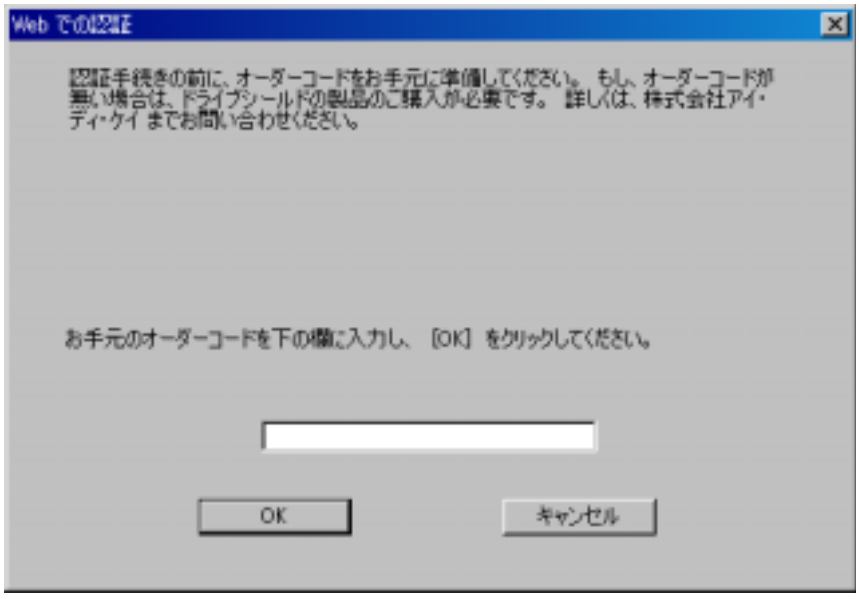
(1) 登録は、プロテクト解除モードで行う必要があります。現在プロテクトモードで起動している場合は、24 ページ**[3-2 プロテクト解除モードにする方法]**の手順にて、プロテクト解除モードにしてください。プロテクト解除モードの場合は、タスクバーの盾のアイコンが赤色に表示されます。そのタスクバーを右クリックすると、次の画面のようなメニューが表示されますので、ここで**[ドライブシールドの認証手続き]**を選択してください。



(2) 次の画面が表示されます。



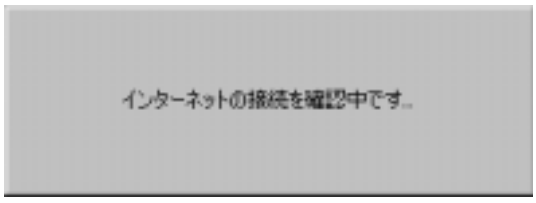
(3) 画面左下の[Web での認証]ボタンをクリックします。
そうすると、次の画面が表示されます。



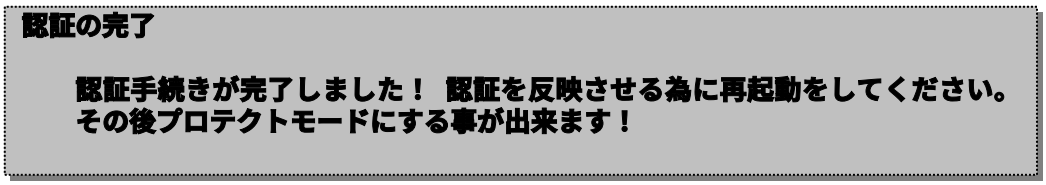
(4) 空欄に、製品に添付の[**オーダーコード**]を入力してください。
オーダーコードは、製品のケースの表面か、書類にて添付してあります。
下記のような数字と、ハイフンにて構成されるコードです（アルファベットが書かれている場合もあります）

0123-4567-89

ハイフン（ー）も入力してください。
その後[OK]をクリックします。



(5) 次のメッセージが表示されたら、成功です。[OK]をクリックすると、下のメッセージが表示されますので、さらに[OK]をクリックし、コンピュータを一旦再起動してください（プロテクト解除モードのまま）



(6) 以上で認証の完了です。

(7) もし、上記の認証手続きの前に、既に試用期間が切れていて、プロテクトモードが選択出来ない状態だった場合は、再起動後、プロテクトモードが選択出来るようになります。

※ エラーメッセージが表示された場合・・・

下のエラーメッセージが表示された場合は、インターネットの接続が確立されていません。ネットワークの設定や、ケーブルの配線等を確認してください。

インターネットの接続が確認出来ません

このコンピュータのインターネットへの接続が確認出来ません。 インターネットへの接続を確認の上、再度お試しください。 もし、どうしても接続が出来ないようでしたら、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

下のエラーメッセージが表示された場合は、オーダーコードを間違えて入力したか、無効なオーダーコード、又は既に使用済みのオーダーコードを入力した可能性があります。 **ご不明な場合は弊社にお問い合わせください。**

有効なオーダーコードではありません

このオーダーコードは有効ではありません。 オーダーコードを確認の上、再度お試しください。 ご不明な点は、株式会社アイ・ディ・ケイ ドライブシールドサポート係 までご連絡ください。

下のエラーメッセージが表示された場合は、そのコンピュータ用の認証情報が既にそのフロッピーに書き込まれています。
このエラーが表示されても、インストールには影響ありませんので、そのまま[OK]で進めていただければ、インストールが完了します。

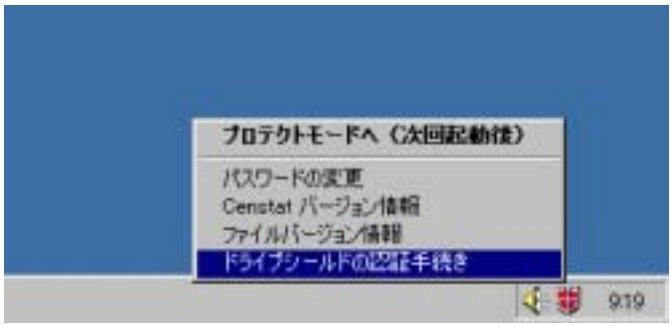
保存済

このコンピュータのコードは、既にこのフロッピーに保存されています。 コードは書込まれませんでした。

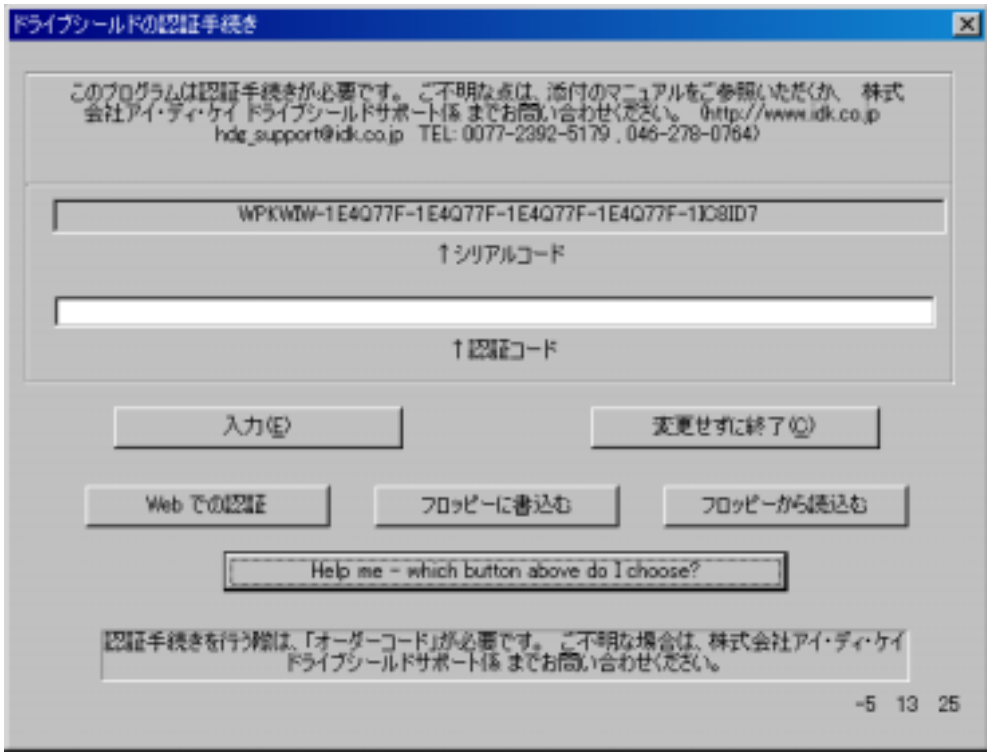
4-2-2 メールによる認証の方法

フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚準備してください。複数台の認証を行う場合でも、1 枚のフロッピーのみで結構です**（ドライブシールドのフロッピーディスクを利用していただいても結構です。なお、その場合は改めてフォーマットする必要はありません）**

(1) 登録は、プロテクト解除モードで行う必要があります。現在プロテクトモードで起動している場合は、24 ページ**[3-2 プロテクト解除モードにする方法]**の手順にて、プロテクト解除モードにしてください。プロテクト解除モードの場合は、タスクバーの盾のアイコンが赤色に表示されます。そのタスクバーを右クリックすると、次の画面のようなメニューが表示されますので、ここで**[ドライブシールドの認証手続き]**を選択してください。



(2) 次の画面が表示されます。

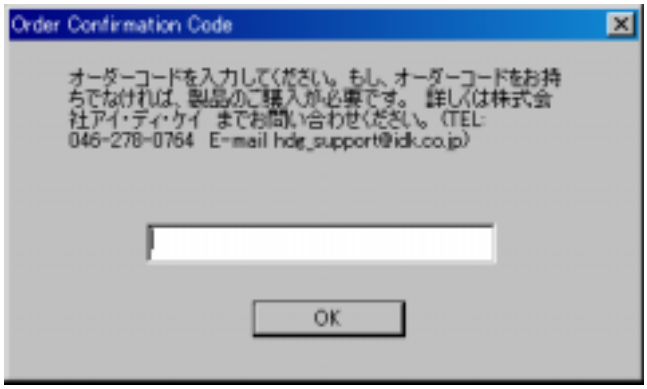


(3)**[フロッピーへ書込む]**ボタンをクリックします。
そうすると、次のメッセージが表示されます。フロッピーディスクを挿入し、**[OK]**をクリックしてください。

フロッピーをセットしてください

フォーマット済みのフロッピーか、前回のコンピュータで使用したフロッピーをセットしてください。

(4) 次の画面が表示されますので、空欄に、製品のケース表面か、書類に書かれた**[オーダーコード]**を入力して、[OK]を押してください。なお、オーダーコードは、数字かハイフン（―）で構成されています。（アルファベットが書かれている場合もあります）



※ 複数台のコンピュータの情報を 1 枚のフロッピーに書込む場合、上の画面は最初の 1 台のみに表示されます。2 台目以降は上の画面は表示されませんが、問題ありません。

(5) フロッピーディスクにシリアルコードが書き込まれると、次のメッセージが表示されます。[OK]を押してください。

保存完了

コードの書込みは成功しました。 このフロッピーディスクは他のコンピュータのコードの保存にも使用出来ます。 もし、これで終了した場合、このフロッピーディスクを株式会社アイ・ディ・ケイ ドライブシールドサポート係 まで郵送いただくか、フロッピーの中の Serial.txt というファイルを添付メールでお送りください (E-mail: hdg_support@idk.co.jp)

(6) 複数台のコンピュータにインストールする場合は、(1) ～ (5) の作業を繰り返して行ってください。但し、2 台目以降は (4) の画面は表示されません。

(7) 以上の作業により、フロッピードライブの中に、Serial.txt（Windows の表示の設定によっては、Serial と表示される場合もあります）というファイルが作成されます。この中に、コンピュータのシリアルコードが書き込まれています。

(8) この Serial.txt をメールに添付し、**[ドライブシールド認証希望]**の表題にて、下記のア

ドレス迄お送りいただけますようお願い致します。 折り返し認証コードをご返送致します。

hdg_support@idk.co.jp

弊社の営業時間について

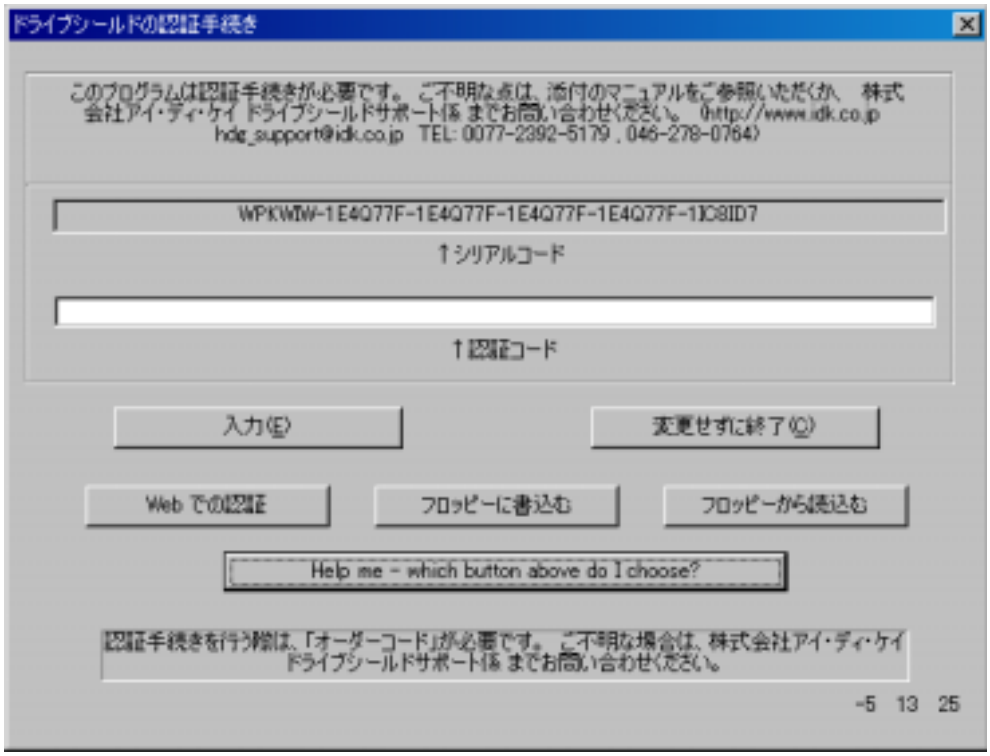
営業時間は平日 9 時～17 時迄です。営業時間内にメールをお送りいただければ、比較的短時間で認証コードを返信させていただきます。

もし、大規模な導入作業をご予定の際は、数日前に作業日程をご連絡いただければ、より短時間の対応が可能になる場合があります。

※ メールが返信されたら・・・

弊社から返信させていただくメールには、activ.txt というファイルが添付されています。このファイルが、認証に必要なファイルです。先ずこれを、先ほどから使用していたフロッピーディスクの直下にコピーしてください。(他のフロッピーディスクを使っても結構です)

(9) 前述の (1)～(2) の手順にて、次の画面を表示します。



(10)ドライブに activ.txt をコピーしたフロッピーディスクをセットし、**[フロッピーから読込む]**のボタンを押します。

(11) 次のメッセージが表示されたら、認証の完了です。[OK]を押したら、コンピュータを一旦プロテクト解除モードのまま再起動してください。

認証の完了

認証手続きが完了しました！ 認証を反映させる為に再起動をしてください。その後プロテクトモードにする事が出来ます！

(12) もし、認証手続き前に既に試用期間が切れていて、プロテクトモードが選択出来ない状態だった場合は、再起動後、プロテクトモードが選択出来るようになります。

※ エラーメッセージが表示された場合・・・

次のエラーメッセージが表示された場合は、間違えて別のフロッピーを入れた可能性があります。そのコンピュータ用の情報が書き込まれたフロッピーを入れてください。

コードが見つかりません

このフロッピーの中からは、このコンピュータ用の認証コードが見つかりません。 フロッピーの内容を確認の上、再度お試しください。

次のエラーメッセージが表示された場合は、フロッピーディスクが正しくドライブにセットされていないか、フロッピーディスクが壊れている可能性が考えられます。もし、フロッピーディスクが壊れていた場合は、ライセンスコードの再発行が必要になりますので、弊社までお問い合わせください。

フロッピーへのアクセス失敗

フロッピーへのアクセスに失敗しました。フロッピーディスクやフロッピードライブを確認の上、再度お試しください。

4-2-3 郵送による認証の方法

郵送による認証の方法は、**4-2-2 メールによる認証の方法**（31 ページ）とほぼ同様の操作で出来ます。

但し、(8) の作業は不要です。その代わり、認証情報を書き込んだフロッピーディスクを下記住所宛てにお送りいただけますようお願い致します。なお、その際宅急便各社の [着払い指定] をご利用ください。また、お手数ですが、運送中にフロッピーディスクが破損しないよう、しっかりとした梱包をお願い致します。 ご返送先のご住所、電話番号の明記もお願い致します。

〒242-0007
株式会社アイ・ディ・ケイ　ドライブシールドサポート係
神奈川県大和市中央林間 6-10-7
TEL : 046-278-0764 （フリーダイヤル: 0077-2392-5179）
e-mail : hdg_support@idk.co.jp

お客様のフロッピーディスクが弊社に到着後、速やかに認証情報を書き込んだ上、ご返送致します。(なお、弊社から返送されたフロッピーディスクには、activ.txt というファイルがコピーされています)

お客様のお手元にフロッピーディスクが到着したら、**4-2-2 メールによる認証の方法** の (9)（34 ページ）の手順に添って、認証を完了してください。

■ 第 5 章 一時保存領域のサイズ変更

本章について

この作業は、クライアントプログラム単体でのみ可能です。 サーバーからの操作は出来ません。

一時保存領域のサイズ変更について

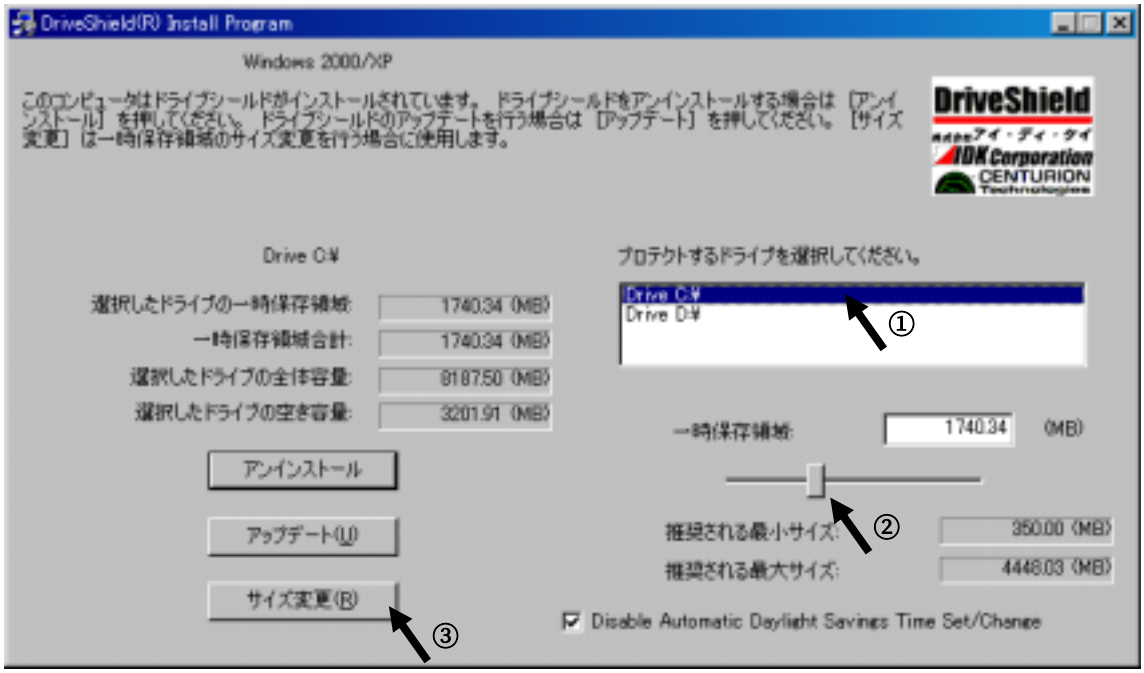
ドライブシールドの一時保存領域は、350MB～4GB の間で、簡単にサイズ変更が可能です。なお、サイズ変更が必要になるのは、以下のような場合です。

- **一時保存領域の設定が少な過ぎた為に、直ぐに一杯になり、頻繁にエラーメッセージが表示されるので、拡大したい。**
- **一時保存領域の設定が必要以上に大き過ぎた為に、追加のアプリケーションをインストールしようとしたところ、ディスクの空き容量が足りず、インストール出来なくなったので、縮小したい。**

(1) サイズ変更の前に、予めプロテクト解除モードにしておいてください（24 ページ **3-2 プロテクト解除モードにする方法** 参照）
WindowsNT 、2000、XP の場合は、Administrator 権限でログオンしてください。また、作業中の未保存のデータがあれば予め保存しておいてください。

(2) フロッピーディスクの中の、**DSInstall.exe**（コンピュータの表示設定によっては、**DSInstall** と表示される場合もあります）をダブルクリックします。

(3) 次の画面が表示されます。



(4) 画面右に標示される欄にて、サイズ変更したいドライブを選択します**（矢印 ①）**

(5) その下の**[一時保存領域]**欄に変更したいサイズを直接入力するか、更にその下のレバーでサイズの調整を行ってください**（矢印 ②）**

(6) 次に**[サイズ変更]**ボタンをクリックします**（矢印 ③）**

(7) **[一時保存領域が作成されました。[閉じる] をクリックしてください]** というメッセージが表示されたら、**[閉じる]** をクリックしてください。

(8) 画面の指示に従い、再起動してください。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

(9) 再起動後、一時保存領域のサイズ変更が反映します。

■ 第 6 章 一時保存領域の削除

本章について

この作業は、クライアントプログラム単体でのみ可能です。 サーバーからの操作は出来ません。

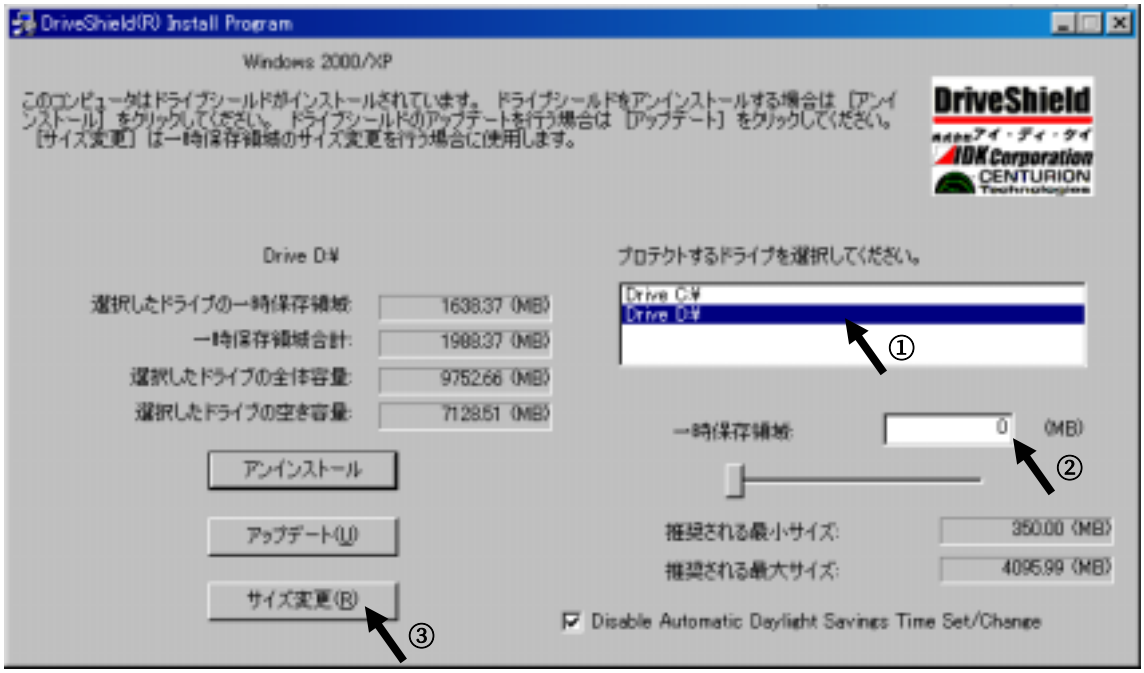
一時保存領域の削除について

ドライブシールドの一時保存領域は、一旦作成しても、後で削除する事が可能です。一時保存領域の削除を行ったドライブは、プロテクトモードでもプロテクトが効かなくなりますので、あるドライブをデータ保存可能にしたい場合等は、次の手順に添って、一時保存領域の削除を行ってください。

(1) サイズ変更の前に、予めプロテクト解除モードにしておいてください（24 ページ **3-2 プロテクト解除モードにする方法** 参照）
WindowsNT 、2000、XP の場合は、Administrator 権限でログオンしてください。また、作業中の未保存のデータがあれば予め保存しておいてください。

(2) フロッピーディスクの中の、**DSInstall.exe**（コンピュータの表示設定によっては、**DSInstall** と表示される場合もあります）をダブルクリックします。

(3) 次の画面が表示されます。



(4) 画面右に標示される欄にて、一時保存領域の削除をするドライブを選択します。**（矢印 ①）**

(5) その下の**[一時保存領域]**欄に 0（数字のゼロ）と入力してください**（矢印 ②）**

(6) 次に**[サイズ変更]**ボタンをクリックします**（矢印 ③）**

(7) **[設定されたサイズは推奨された最小サイズを下回っています！このままインストールを進めますか？]** というメッセージが表示されますが、構わず **[はい]** をクリックしてください。 次に **[一時保存領域が削除されました。[閉じる] を押してください]** というメッセージが表示されますので、**[閉じる]** をクリックしてください。

(8) 画面の指示に従い、再起動してください。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

(9) 再起動後、一時保存領域の削除が反映します。

■ 第 7 章 アンインストール方法

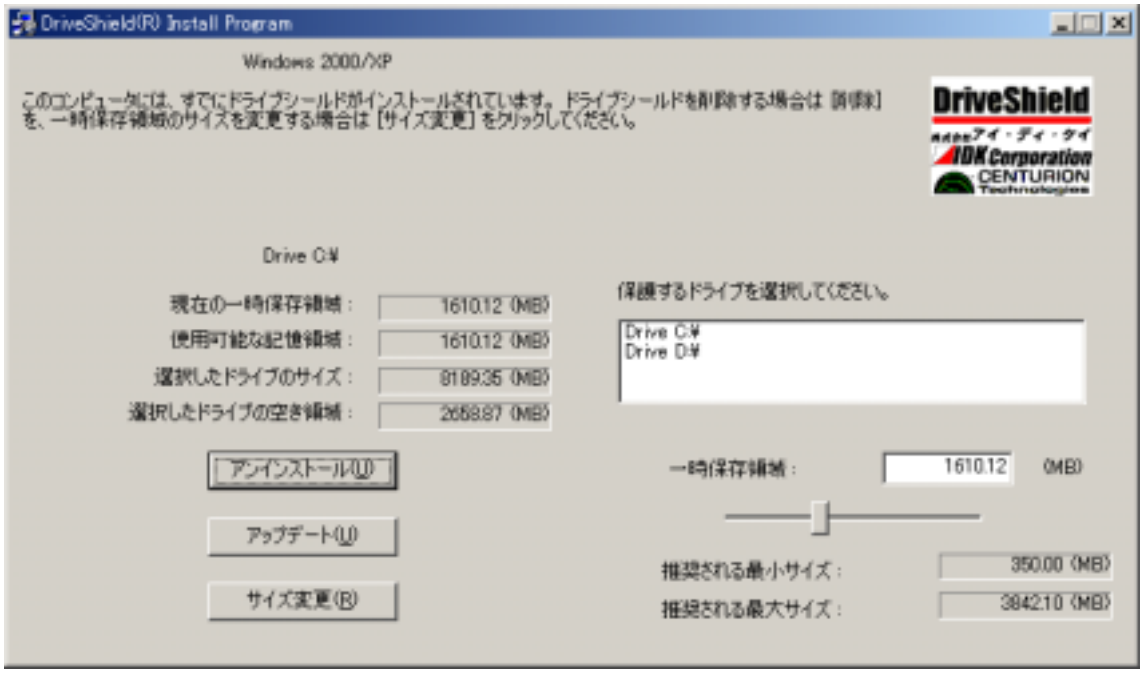
本マニュアルについて

この作業は、クライアントプログラム単体でのみ可能です。 サーバーからの操作は出来ません。

(1) アンインストールの前に、予めプロテクト解除モードにしておいてください（24 ページ **3-2 プロテクト解除モードにする方法** 参照） WindowsNT 、2000、XP の場合は、Administrator 権限でログオンしてください。また、作業中の未保存のデータがあれば予め保存しておいてください。

(2) フロッピーディスクの中の、**DSInstall.exe**（コンピュータの表示設定によっては、**DSInstall** と表示される場合もあります）をダブルクリックします。

(3) 下の画面が表示されますので、**[アンインストール]**ボタンをクリックしてください。



(4) 次のメッセージが表示されます。特に理由の無い限り[はい]をクリックしてください。

全ての一時保存領域を削除しますか？

全ての一時保存領域を削除しますか？（はい = 全て削除，いいえ = 選択されたドライブのみを削除）

※ デュアルブート環境にそれぞれドライブシールドをインストールされているような環境では、[いいえ]を選択する場合もあります。

(5) メッセージに従い、再起動をしてください。

ご注意

未保存のデータが有った場合でも強制的に再起動しますので、未保存のファイルが有る場合は、ここで[いいえ]を押し、更にインストール画面を × で閉じ、データを一旦保存してから手動で再起動してください。

以上でアンインストールの完了です。

■ 第 8 章　FAQ（よくあるご質問とその答え）

（トラブルに関して）

Q1. プロテクトモードで起動した場合、コンピュータの電源を終了しようとしても、終了後、勝手に再起動されてしまう。

A1. Windows95, 98 コンピュータの一部の機種において、上記の現象が確認されております。
（原因）
コンピュータ起動時に読込まれるドライブシールドのプログラムが、MS-DOS との互換プログラムである為、一部の機種において、ハードウエアとの相性問題発生する場合があります。
（対策）
以下の設定変更にて、解決する事が確認されております。

(1) ドライブシールドをプロテクト解除モードで起動します。

(2) C:\Config.sys を編集して
INSTALL=C:\CEN\DRVSHLD.EXE の行を削除します。

(3) C:\windows\dosstart.bat の先頭に下記の行を追加してください。
@C:\CEN\DRVSHLD.EXE

※ コンピュータ によっては、Dosstart.bat のファイルが存在しない場合もあります。その場合は、C:\Windows の下に、Dosstart.bat という名前のファイルを作成して、その中に、上記の内容を書込んでください。

(4) 以上で作業後、一旦再起動を行っていただき、その後、プロテクトモードで起動してください。

Q2. 認証がどうしても成功しない。

A2. 複数の原因が考えられます。 オーダーコードが既に無効になっている可能性もありま

すので、弊社までお問い合わせいただけますようお願い致します。

Q3. パスワードを忘れてしまったのですが？

A3. 復旧方法については弊社までお問い合わせください。 なお、その際、お使いの OS をお知らせください。 また、NT4.0、2000、XP の場合は、ファイルシステムもお知らせください（FAT か、NTFS か？）

（その他の内容）

Q3. ドライブシールドは、MBR に影響を与えるのでしょうか？

A3. ドライブシールドは、MBR（マスターブートレコード）も保護の対象としますが、MBR 自体の書換えは行いませんので、Microsoft 以外の MBR（Linux の LILO や GRUB、System Commander 等）を使用しても全く問題有りません。

Q4. ドライブシールドは、BIOS の保護は出来ないのでしょうか？

A4. ドライブシールドは下記のような理由により、あえて BIOS の保護機能を持たせない事にしております。

- BIOS は非常に複雑なプログラムの為、それに関与する事により、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす事が考えられる。
- BIOS の種類によっては、対応出来ない等の相性問題が発生する。
- BIOS を保護する事により、一部使用できないアプリケーションがある。
- BIOS を保護する事により、大規模な運用上にて不都合が生じる場合がある。

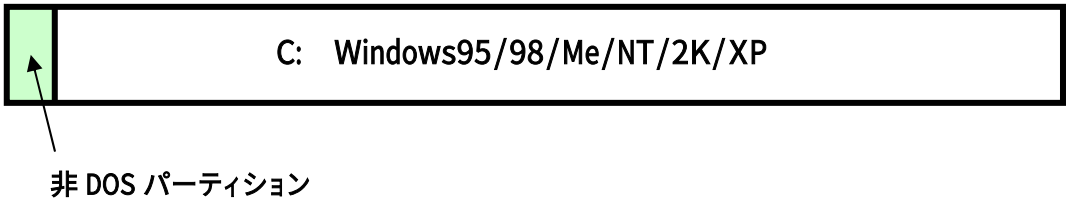
特に、クローニングを主体とする大規模システム構築の際には、BIOS を保護しない事によるメリットは大きく、各システムインテグレーター様にもこの点を高く評価いただいております。

なお、BIOS の保護に関しましては、BIOS 自体の管理者パスワードを設定していただく事により、実用上十分な保護が可能と考えられます。

従いまして、弊社としては [復元ツール] に BIOS 保護機能を持たせるメリットは特に無いと考えております。

Q5. ハードディスクの先頭に、非 DOS パーティションがあっても、ドライブシールドはインストール出来ますか？

A5. 一部のコンピュータや、マルチブートユーティリティーがインストールされたコンピュータでは、下図のように、C:より前部分に、数 10MB～数 100MB の非 DOS パーティションが存在する事が有ります。 ドライブシールドではこのような環境でも特に問題無くインストール可能です。



Q6. プロテクトモードで稼動中、一定時間（例：２時間）経過後、必ずハングアップしてしまう。

A6. OfficeXP、Office2000、Office97 がインストールされている場合、それらの機能の一部である、Find Fast が有効になっていると、この現象が起こります。 その場合は次の手順に従い、これを無効にしてください。
（Find Fast は、定期的にハードディスク中のオフィス関連ファイルの検索用カタログデータを一定時間おきに作ります。それによりドライブシールドの一時保存領域を急激に一杯にし、ハングアップの原因となります。なお、ドライブシールドをプロテクトで使っている場合は、Find Fast が行う内容は、結局再起動後にリセットされる為、殆ど意味がありません。 従って、この設定変更による弊害は無いと考えられます）

（手順：OfficeXP の場合）

(1) 先ず、ドライブシールドをプロテクト解除モードでコンピュータを起動します。
(2) OfficeXP のアプリケーションを何か一つ起動します。Word でも、Excel でも結構です。
(3) [ファイルメニュー] → [検索] をクリックします。画面右側に [検索オプション] というボタンが現れますので、それをクリックしてください。 [インデックスサービスの設定] ウインドウが表示されますので、ここで、 [いいえ、インデックスサービスを開始しません] にチェックを付けて [OK] を押してください。
(4) プロテクト解除モードのまま、一旦コンピュータを再起動してください。
(5) 以上で対策の完了です。

（対策手順：Office2000、Office97 の場合）

(1) 先ず、ドライブシールドをプロテクト解除モードで コンピュータ を起動します。
(2) コントロールパネルの中の［Find Fast］のアイコンをダブルクリックします。
(3) **［インデックスの対照となるディスク／フォルダ］**の欄に表示されている項目（例：C:）を選択し、インデックスメニューから、インデックスの削除を選択、OK を押していきます。項目が複数ある場合は、この操作を繰り返します。そうすると、先ほどの［インデックスの対照となるディスク／フォルダ］の中の内容が空になります。
(4) 最後に、Find Fast の画面を閉じ終了し、プロテクト解除モードのまま一旦コンピュータを再起動してください。
(5) 以上で対策の完了です。

Q7. アウトルックエクスプレスの内容を保存する方法

A7. ドライブシールドがプロテクトモードでは、アウトルックエクスプレスで受信したメールの内容等も消えてしまいます。
受信したメールを保存したい場合、下記の方法により保存が可能です。
（ハードディスクが C:、D: というように、2 つ以上のパーティションに別れている状態を前提に説明致します。更にアウトルックエクスプレスは、バージョン 5 を例に説明致します）

※ 移動プロファイル環境で、アウトルックエクスプレスの内容がサーバーに保存されるような環境の場合、下記の設定は不要です。

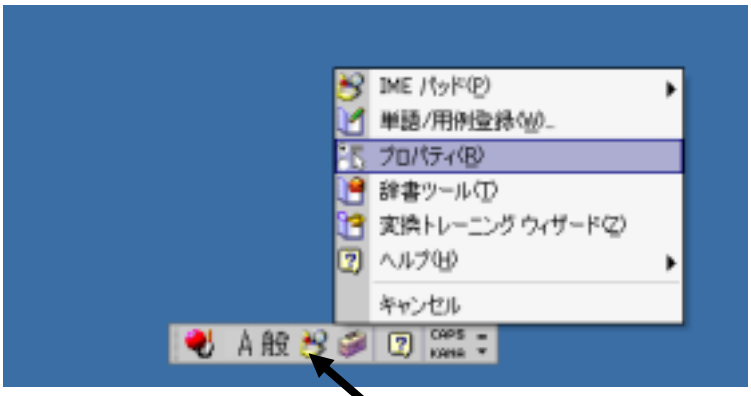
(1) 予め D:ドライブ等のシステムパーティション以外のパーティションを、ドライブシールドによる保護をしない設定にしておきます。
(2) [ツール] ニューから、 [オプション] を選択し、 [メンテナンス] のタグをクリックします。
(3) [保存フォルダ] のボタンをクリックします。
(4) [変更] ボタンをクリックし、D:ドライブ等の保存可能な場所を指定します（例：D:¥OUTLOOK）
(5) [OK] を押して行きます。
(6) 一旦アウトルックエクスプレスを終了します。再度起動した際に変更が有効となります。

※ 移動した内容はドライブシールドによる保護はされませんのでご注意ください。

Q8. IME のユーザー辞書を保存可能にする方法

A8. ドライブシールドをプロテクトモードでコンピュータを使用すると、IME のユーザー辞書も保護の対象になる為、せっかく学習した辞書の内容が、再起動後元に戻ってしまいます。 コンピュータ教室等で 1 台のコンピュータを複数の人が使うような環境では、その方が都合が良いかもしれませんが、一人で使うコンピュータの場合、それでは不便を感じるかもしれません。
以下のようにユーザー辞書を保存可能なパーティションに移動すると、この問題を回避する事が出来ます。
（OfficeXP に付属する、Microsoft IME スタンダードを例にご説明致します）

(1) 次の画面のように、ツールアイコンをクリック、 [プロパティ] を選択します。



(2) [辞書／学習] のタグを選択し、 [ユーザー辞書] の枠の [参照] ボタンをクリックします。
(3) ここで、D:ドライブ等の保存可能な場所を指定します（例：D:¥IME）
※ 移動した内容はドライブシールドによる保護はされませんのでご注意ください。

Q9. CD-R や、CD-RW を使用する際の注意点？

A9. 通常の方法で CD-R や CD-RW に書き込みを行うと、元のデータのイメージを一時ハードディスク上に作ります。 しかし、ドライブシールドがプロテクトモードの時は、このイメージが一時保存領域に蓄積されます。 その為、一時保存領域が急激に一杯になり、ハングアップしてしまう事があります。
この回避策として、一時保存領域は出来るだけ最大の 4GB まで確保していただき、連続して違うデータを書き込む際は、出来るだけこまめにコンピュータの再起動をし、一時保存

領域を空にしていただく事をおすすめ致します。 しかし、それでも 650MB 近くの大きなデータ量の CD-R、CD-RW をコピーした場合は、コピーは完了するものの、その後ハングアップする場合があります（現在対策を調査中です）
ただし、On the fly 方式の書き込み方法（ハードディスクにイメージを作らず、元データを直接 CD-R、CD-RW に書き込む方法）の場合この問題は起こらないようです。

※ FAQ の更新について

新たな FAQ が追加された場合、弊社ホームページにて随時掲載させていただきます。

http://www.idk.co.jp/products/hdg/CDS/index.html

■ 第 9 章 応用事例

ここでは、いくつかの応用事例を紹介させていただきます。
なお、これらの情報は弊社内での動作検証や、お客様からの実績情報に基づく内容ですが、あくまでも弊社が動作を保証する内容では無い事を予めご了承いただけますようお願い致します。

9-1 クローニングについて

学校のコンピュータ教室等にドライブシールドを導入される場合、コンピュータの台数が多い理由から、最初一台のコンピュータに必要な環境をインストールし、その内容を丸ごと Drive Image や、Ghost のようなクローニングソフトウエアにてイメージファイルを作り、それを雛型として残りの同じ型のコンピュータに展開・復元して複製を作っていくという作業を行う場合があります。
ドライブシールドは、上記のような雛型コンピュータに予めインストールしておいても、展開後、ドライブシールドの動作上の問題が発生するような事は特に確認されておりません。なお、各クローニングソフトウエアは出来るだけ最新のバージョンを使っていただく事をおすすめ致します。

9-2 移動プロファイル環境での使用

ドメインコントローラによる移動プロファイル環境の Windows NT 4.0、2000、XP(Professional) クライアントは、各ユーザープロファイル（デスクトップの内容や、Outlook のメールの内容、インターネットエクスプローラのお気に入り等）がドメインコントローラ上にコピーされます。
これらのクライアントコンピュータがドライブシールドにより保護されていても、上記のプロファイルの内容は、ログオン毎にサーバーからダウンロードされますので、前回の変更した内容が反映されます。このような環境でドライブシールドを使用した場合、重要なシステムファイル等への変更はしっかりと保護されるものの、各ユーザーは作業内容やある程度の設定内容を保存する事が出来、非常に便利な使い方が出来ます。実際に、多くのコンピュータ教室が、このような環境でドライブシールドをご使用いただいております。

9-3 RAID への対応

弊社にて、以下の RAID 環境にて動作確認をしております。

コンピュータ: IBM Netfinity5600 (8664-71Y)
OS: Windows 2000 Server
RAID card : IBM ServRAID3L

RAID level : 5
HDD : HotSwapHDD 18GB SCSI x 4 台 （内 3 台は On-Line 、1 台は Hot spare）
パーティション構成: C: 4GB , D: 32GB
ドライブシールドインストール済み

以上の環境において、ドライブシールドがプロテクトモードで稼動中、ホットスワップディスクを抜きます。なお、その際、ホットスペアディスクがリビルドを開始します。
リビルド終了後、別のハードディスクを取り付けたところ、オンラインとして正常に認識されます。
弊社で確認した中では、これら一連の動作は正常に完了し、ドライブシールドとの問題は特に確認されませんでした。

また、IDE RAID 環境でドライブシールドを利用しているお客様からのご報告では、IDE RAID でも特に問題無く動作しているという情報をいただいております。

9-4 サーバーへの導入事例

ドライブシールドは、WindowsNT4.0 Server や、Windows2000 Server での導入実績も多数ございます。
それらの実績例から、サーバーへの主な導入目的や、運用上のヒントやご注意を下記にご紹介致します。

（導入例 1）
目的： IIS 等の Web サーバーで公開しているコンテンツを、クラッキングによる改ざんから防止する為にドライブシールドを使用している。

ヒント： ドライブシールドは、上記のような環境で改ざん自体をリアルタイムに防ぐ事は出来ませんが、もし、改ざんされてしまった場合、再起動を行えば元の状態（改ざん前の状態）に戻す事が出来ます。
なお、意図的に Web サーバーのコンテンツの更新を行う場合は、ドライブシールドをプロテクト解除モードにしてから、一旦サーバーを再起動してから行う必要があります。

（導入例 2）
目的：ファイルサーバーや、プリンタサーバーの、システムパーティションの保護。

ヒント： パーティションが、C:（システム用）、D:（共有データ用）という構成の場合、ドライブシールドで C:を保護、D:を保護しない設定にすれば、システムの破損を防止し、

かつ共有フォルダへのデータ保存も可能となります。

（ドライブシールドをサーバーへ導入する際の全般的な注意点）

- ドライブシールドで、サーバー内の全てのパーティションを保護した場合、重要なシステムログ等も再起動に消去されてしまいます。
  解決策としては、重要なシステムログ等は、定期的に他のメディア等に保存するか、ドライブシールドで保護しないパーティションを設け、そこに保存する方法等が考えられます。
- ドライブシールドがプロテクトモードで使用中は、一時保存領域を少しずつ使用するので、ある作業量を超えると、 [遅延書き込みエラー] 等のエラーが多発するようになります。それを防止する為に、一時保存領域を最大の 4GB まで確保し、更にサーバー機の定期的な再起動をおすすめ致します。

9-5 ウイルス駆除ソフトとの併用について

もしも、ドライブシールドでプロテクトされているハードディスクにウイルスが感染した場合、それらはコンピュータ再起動後、完全に消えてしまいますので、ドライブシールドはウイルス対策としても非常に有効です。
しかし、ハードディスクに感染したウイルスが、メールに添付されて他人に送信されてしまったり、フロッピーディスクを経由して他のコンピュータに感染してしまったりする事についてはドライブシールドでは防ぐ事が出来ません。そのような意味でも万全なウイルス対策をお考えの場合は、ウイルス駆除専用のソフトとの併用を強くおすすめ致します。

（ウイルス駆除ソフトのファイル更新について）

最新の多くのウイルス駆除ソフトは、数日おきにインターネットや、LAN 内の管理サーバーから定義ファイルやプログラムファイルを自動的に更新します。しかし、ドライブシールドがプロテクトされているハードディスク上では、これらのファイルが更新されたとしても、コンピュータ再起動後、また以前の古い状態に戻ってしまうという問題が発生します。
このような場合、［ファイル更新の度に再起動を必要とするウイルス駆除ソフト］では、再起動後、結局また元の状態に戻るので、ファイルを更新する為には一旦プロテクト解除モードにする必要があります。

しかし、［ファイル更新する度に再起動を必要としないウイルス駆除ソフト］では、ドライブシールドがプロテクトモードであった場合、再起動する度にファイル更新する事になりますが、起動後、これらが更新された状態でコンピュータを使用し続ける事が出来ます。日常のメンテナンスの省力化を考えると、後者の方が圧倒的に有利と言えます。

なお、後者の場合、LAN 内に管理サーバーを設け、各クライアントコンピュータが、管理サーバーから更新ファイルをダウンロードする方法を取れば、インターネット上のサーバーから直接ダウンロードするよりも、インターネット回線のトラフィック軽減になります。

なお、弊社で確認している範囲では、*Norton AntiVirus Enterprise Solution* や、***ウイルスバスターコーポレートエディション*** の現行のバージョンの場合、ファイル更新時に再起動を必要としないようです。
（詳しい情報については、各メーカー様にお問い合わせいただけますようお願い致します）

■ 第 10 章 ユーザーサポートについて

何かご不明な点、インストール時のトラブル等は下記宛ご連絡いただけますよう宜しくお願い致します。 お問い合わせの際には、円滑なサポートの為にもあらかじめ使用環境、症状等を出来るだけ詳しくメールか FAX でお送りいただけますようお願い致します。

ドライブシールド ユーザーサポート窓口
（本社 営業部）
平日 9 時～17 時
TEL : 046-278-0764 （フリーダイヤル: 0077-2392-5179）
FAX : 046-278-0906
e-mail : hdg_support@idk.co.jp

※ 記載されている社名、商品名は各社の商標または登録商標です。